

「民医連の綱領と歴史」を学ぶ

スタート集会

全日本民医連は今年度、綱領学習大運動の取り組みを進めるよう呼びかけています

全日本民医連はこれからの1年間、民医連の綱領と歴史を学ぶ大運動を提起しています。同仁会では綱領学習推進本部を立ち上げ、4月11日に全日本民医連の岸本事務局長を講師に迎えてのスタート集会を開催。事業所や職場での学習を推進していく立場である職業者87人が参加しました。

推進本部長でもある齊藤理事長は、冒頭のあいさつで「忙しい日常業務の中で、いかにむねに理念の追求ができるか。患者になれない患者に手を差し伸べることができるか。綱領を学ぶ意義はそこにある。自分たちがどんな立ち位置に立つことを求められているのかを、真剣に考え、綱領学習ブックレットを学ぶ意義やポイントをつかみ、読了・学習できるようにしましょう」と訴えました。

講師の岸本事務局長は「今回の大運動は3つの問題意識（新たな発展期、民医連で働く意味、情勢・方針をつかむ基軸）から提起されていること。民医連がなんのために誰のために存在するのかをつかみ、日常業務にまで落とし込むことが綱領学習の意義。民医連の歴史の解説を通じて、いまの民医連の文章はこの歴史の積み重ねのうえにある。学んで民医連の新たな発展期の条件をつくり出そう」と綱領を学ぶ意義を丁寧に解説されました。



岸本全日本民医連事務局長

スタート集会の最後に清水人事部長から「事業所・職場での読了会の計画などで7月末までに全職員が読了しよう」などの行動提起を行いました。激突の時代に日常業務の「羅針盤」となるのが全日本民医連綱領です。綱領と民医連の歴史を学び、未来を確かなものにする



齊藤理事長が開会あいさつ

ため今年度1年間かけて学習し、医療介護の運動をさらに発展できるように、職員みんなで工夫していきましょう。



7月末までの重点

全職員がブックレットの学習に取り組みしましょう！

- ①管理者、職責者は全文を読み通すことを目標とします
- ②一般職員は全文を読み通すことをめざして、最低限「第一部・綱領編」については必ず読むことを目標とします
- ブックレットの読了報告は報告書の提出によりみはらグループ教育委員会が集約を行います。
- 報告用紙の提出のほかスマートフォンなどからQRコードを読み取ってインターネットを使っての報告も可能です。

一般職員用報告



医師・職責者以上報告



シリーズ 現場からの視点

その46



グレードA (超緊急帝王切開術) 訓練について

可欠です。

医師のグレードA宣言と同時に、小児科医、麻酔医、助産師、看護師が何よりも優先して手術室に集合し、医療機器や手術を開始できる多くの条件を整える必要があるため、対応できる医療機関は多くありません。

耳原総合病院は、新しくなり手術室も増え、グレードAに対応する体制を持つことが可能となり、迅速に、安全に対応できるよう定期的にシミュレーションを行っています。シミュレーションを繰り返す中で、改善を積み重ねています（写真）。

当初は、手術室を使用する設定で行っていましたが、すべての手術室が使用できない状態を想定し、あえて厳しい条件でも行っています。また、職員が妊婦役をすることで患者さんの立場で意見も出され、移送中の声かけや移動のために使用するエレベーターを最優先で使用できるような仕組みもつくることができました。最近では、新生児蘇生（NCPR）訓練も同時に行っています。

訓練をはじめから、実際に3回のグレードAが宣言されましたが、日頃の訓練が活かされてスムーズに行うことができました。今後も、安心・安全な良い医療が提供できるように訓練を続けていきます。

CWHC（チルドレンアンドウイメンズヘルスケアセンター）
担当事務次長 奈良隆幸